

第44回マーチングバンド関西大会 審査内容

【高等学校・一般の部】

音楽と視覚の調和

作品の全体的調和

ショー全体のコーディネーションを音楽的な要素と視覚的な要素との結びつきをふまえて総合的に判断する。

コーディネーション

- ・音楽の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。
また、無理のない流れがあるか。
- ・クライマックスが表現されているか。
- ・各セクションの組み合わせに調和や変化が感じられるか。

音楽と視覚の調和

- ・音楽と視覚が調和されているか。

独創性と多様性

- ・作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。

作品の解釈と表現

ショー全体の解釈と表現を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

表現の幅と質

- ・作品が意図するところを理解し強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅をもたせているか。
また、それらを高めようとしているか。

ミュージシャンシップとショーマンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。
- ・観客とのコミュニケーション（伝達）が良好か。

完成度

- ・内容を把握し、ミスやエラーのない演奏・演技になっているか。
- ・表現の幅と質が作品の意図するところを理解したものとなっているか。また強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現が完成したものとなっているか。

演奏の調和

演奏の音楽性

演奏の音楽性がいかに優れているかを、管楽器・打楽器の両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

表現力

- ・音楽的表現がいかに幅広く多様で音楽の内容をよく理解しているか。

フレージング

- ・曲想にあったフレージングがなされているか。統一されているか。

ダイナミックレンジ

- ・強弱が適切かつ統一されているか。その範囲がいかに幅広いのか。

バランスとブレンド

- ・バランスとブレンドのコントロールがどのように行われているか。

テンポ

- ・テンポの維持・コントロールがどの程度正確かつ適切に行われているか。

演奏の質と技術

演奏の質や、全体的な技術がいかに優れているかを、管楽器・打楽器両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

全体的な音質

- ・全体的な音質が美しいか。

チューニング

- ・チューニングが的確になされているか。

イントネーション

- ・イントネーションがどれだけ揃っているか。

リズムコントロール

- ・リズムコントロールが適切にされているか。

タイミング

- ・タイミングが正確に揃っているか。

フォーカス（音の方向性・指向性）

- ・フォーカスコントロールがどの程度適切で、かつ揃っているか。

演技の調和

視覚要素（フォーム、ボディ、手具）

演技の構成がいかにより優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

統一性

- ・視覚的構成がいかによりまとまっているか。

視覚的音楽性（フレーズ、解釈、強調）

- ・視覚的構成がいかにより音楽的であるか。

表現力

- ・視覚的表現がいかにより豊かであるか。

多様性

- ・視覚的構成がいかにより多様であるか。

演技の質と技術

演技の質や全体的な技術がいかにより優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

同一性

- ・同じ動作がいかにより同じようにできているか。

全般的技術

- ・全般的な動作の技術がいかにより優れているか。

アーティキュレーション

- ・動作のアーティキュレーションがいかによりそろっているか。

鮮明度

- ・動作がいかによりはっきりと、かつ明瞭に行なわれているか。

リカバリー

- ・リカバリーがいかにより早い。

管楽器の技術

基礎技術力

管楽器セクションの基礎技術力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

呼吸法

- ・十分に息が吸えているか。
- ・安定したブレスコントロールができていないか。
- ・必要な長さまできちんと息を使えているか。

音質

- ・無理のない自然な響きが得られているか。
- ・それぞれの楽器の特性に合った音色をつくっているか。

音程

- ・チューニングが正確になされているか。
- ・正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。

アーティキュレーション

- ・曲想に合っているか。
- ・十分な多様性があるか。
- ・よく統一されているか。

テンポ及びタイミング

- ・ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。
- ・テンポ・タイミングがどの程度正確か。

表現力

管楽器セクションの表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

表現方法とフレーズ

- ・音楽的表現がいかに幅広く、多様で音楽の内容をよく理解しているか。
- ・曲想に合ったフレーズがなされ、それが統一されているか。

ダイナミックレンジ

- ・音量に関しての解釈が統一されているか。
- ・曲想に合った強弱の付け方ができているか。

バランスとブレンド

- ・全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランス良くブレンドされているか。
- ・旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。

スタイル

- ・楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を演奏者がいかに理解し表現しているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

打楽器の技術

基礎技術力

打楽器セクションの基礎技術力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

奏法の統一と適応

- ・グリップ、フォーム、スティックハイトがどの程度統一されているか。

音楽の音作り

- ・楽器本来の良い音が出せているかどうか。（奏法的に導き出せているか。調整で導き出せているか。）
- ・楽曲に対し、適した楽器、道具（スティック等）を使用しているか。
- ・会場の音響を考慮した音作り（調整）がされているか。
- ・各楽器の音程、音域がバランス良く決められているか。

ピッチの正確さ

- ・同じ楽器間で個々のピッチがどの程度正確か。
- ・楽曲の特徴を配慮した音程、音域になっているか。

アーティキュレーションの明確さ

- ・同じ内容の演奏をしていると思われる演奏が、どの程度同じように演奏されているか。
- ・演奏上のミス、くせ、手順、アクセント、中断等がいかに少ないか。

テンポ及びタイミング

- ・ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。
- ・テンポ、タイミングがどの程度正確か。

表現力

打楽器セクションの表現力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

表現方法とフレージング

- ・音楽的表現がいかに幅広く多様で、音楽の内容をよく理解しているか。
- また、曲想に合ったフレージングがなされているか、統一されているか。

ダイナミックレンジ

- ・音量に関する解釈が統一されているか。
- ・曲想を考慮した強弱の付け方ができているか。

バランス

- ・各楽器間の音量のバランスが、的確に決められているか。

スタイル

- ・楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がどの程度理解し表現しているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

動きの技術

基礎技術力

演技者の基礎技術力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。
(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

スタイルの統一と適応

- ・フォワードマーチ、リアマーチ、マークタイム、停止姿勢、ターン方法等が統一されているか。
また、その動作が演奏することに適しているか。

動作の転換とタイミング

- ・全ての連続動作が正確でスムーズに行われているか。

楽器、手具等の保持および使い方

- ・演奏演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。

リカバリー能力

- ・ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

達成度と表現力

演技者の表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。
(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

列、および間隔のそろえ方

- ・列をそろえるにあたり、その基準を理解しており、そのうえで揃えられているか。
また、間隔（インターバル・ディスタンス）の取り方を理解しているか。

ボディワーク

- ・演奏されている音楽に適した表現がなされているか。

手具等の表現

- ・手具の扱い方、また、振付けが音楽に適した表現となっているか。

ショーマンシップとコミュニケーション

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。また表現を通して観客との対話がなされているか。

カラーガードの技術

基礎技術力

カラーガードの技術力や表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

スタイル

- ・カラーガード全体としてのスタイルが、統一されているか。

技術

- ・身体に関すること、動作、手具の扱いを、理解し実施しているか。

ポジション

- ・演技中の身体、手具のポジションが統一されているか。

タイミング

- ・動作、手具操作のタイミングが一致しているか。

トレーニング方法

- ・ショーを適切に表現するために必要なトレーニングがされているか。

リカバリー

- ・ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

表現方法

カラーガードの表現方法がいかに優れているかを判断する。

表現

- ・表現方法に独創性、一貫性があり、音楽を的確に理解しているか。

身体の形や動き、手具の利用

- ・ボディーワーク、ダンステクニック、フラッグ、ウェポン、その他の手具が噛み合っていて、その上で楽曲に合っているか。

音楽性

- ・ショーを構成する音楽に対して、適切に理解して反映しているか。

多様性

- ・視覚的に表現する様々な要素が、多様であるか。

表現方法

- ・身体の形や動き、手具の利用、音楽性、多様性を表現する方法が適切であるか。

貢献度

- ・表現方法が適切に完成されているか。